犠牲「万単位に」

宮城知事認識

避難者、6県で45万人超

河北新報
3月14日(月)
河北新報社
仙台市青葉区五橋1-2-28
郵便番号 980-8660
「東」は、未来
電話 (022) 211
読者相談室 1447
報道部1127 販売部1304
スポーツ部1130 営業部1318
夕刊編集部1146 営業管理部1312
生活文化部1132 事業部1321
総合案内 (022) 211-1111
ご購読申し込みは
0120-09-3746

2面 引かない水 救出阻む
3面 8万人の避難本格化
4面 座談会 津波想定に甘さ
6・7面 被災者の生活関連情報

東日本大震災関連記事

8・9面 グラフ 懸命に生きる
14面 指揮系統まひ限界
15面 救助待つ 多くの命
16面 津波去り 憔悴漂う

石巻一変 街の顔浸水、市民ぼうぜん

東日本大震災の発生から3日目の13日、大津波に襲われた宮城県石巻市。石巻市の中心市街地は、一面がれきと化した。壊滅状態の街並み、遺体を下ろす作業員の姿。一瞬にして多くの命が失われた。市民がぼうぜんとする中、懸命の救出作業が続いた。

JR石巻駅前の商店街や周辺の住宅は水没し、発生後、引いては水かさが減ったが、場所によっては腰の高さまで水に浸かっている。ヘリコプターが空を行き交い、ひっきりなしに飛び回り、身動きが取れず孤立した人々を次々と救出する。

市庁舎の周りも深い水に囲まれ、陸上自衛隊などによる救出作業も続いていた。

一部地域で電気が復旧し、家族の安否を気遣う人々が、無事です、生きています、などと書いた紙を掲げ、通信機器などを求めて、市内の商店街を歩く。

避難生活を送る人々は数万人に及ぶとみられる。石巻市庁舎の教室に避難した市内の自営業者は「津波はこないでください」と祈っていた。

宮城県警の竹内県警本部長は、死者は最多で5人、岩手県で2人、福島県で2人の計9人となったことを明らかにした。このほか仙台市若林区で1人の遺体が見つかっている。

宮城県警本部も、収容された遺体の数が万人単位に及ぶのは必至と覚悟した。いずれも震災対策本部会議で発言した。

各警察本部が集計した人的被害状況によると、宮城県で約1万人、岩手県で約2万人、福島県で約1万人、行方不明は合計1万3353人。宮城県で約500～300人、岩手県で約2000～1000人、福島県で約1000人。

新たに発見された600人以上の遺体の一部を収容した。このうち、約1600人分の身元が確認された。

約2万人と連絡が取れない南三陸町のほか、女川町で約6700人と連絡が取れないなど、計3万人と連絡が取れない。

宮城県内の避難所は、石巻市で約1万人、仙台市で約8000人、気仙沼市で約1800人、女川町で約1000人、名取市で約700人。

被害地域は余震が続き、気象庁は3日以内に、最大震度6の余震が発生する確率は70%と見ている。

避難者は、宮城、岩手、福島の3県で約6万人に上るとみられる。気象庁は東北地方の太平洋沿岸に出ている津波注意報を全国解除した。

政府は、徴兵忠実者(予備自衛官)の災害派遣を10万人態勢とする。

決定したと発表した。(関連記事6・7面)

宮城知事認識

M9.0に修正 気象庁

気象庁は13日、東日本大震災の地震規模を、世界最大級のマグニチュード(M)9・0に修正した。M9・0のエネルギーは当初の速報値M7・9の約45倍、直前の暫定値M8・8の約5倍。

今回、気象庁は速報値に基づき地震発生3分後に東北沿岸に大津波警報を発表、「最大津波は10メートル以上を想定していた」と説明した。

同庁地震津波監視課は「これまでは過去の地震データを用いた」としている。

横浜理科教育センターの佐藤修一所長は「2日の地震(M7・2)の後、M9・0の地震が起きたとみている。今回の地震にはM8・8の地震が連動した。地震学的に説明できる」と話した。

福島第1原発

3号機も炉心溶融

建屋に水素、爆発懸念

東北電力は13日、福島第1原子力発電所(大熊町、双葉町)の3号機で、炉心の一部が溶け、燃料棒が露出していると発表した。

東電は、3号機の燃料の露出により水素が発生し、建屋内に水素が充満し、爆発する恐れがあり、一時、同発電所の全電源が失われ、冷却機能が失われたことから、原子炉の圧力を下げるため、蒸気を外部に放出する作業を進めていた。